

ナブテスコ株式会社 2020年12月期第2四半期 決算説明会

2020年8月11日
CEO 寺本 克弘

当資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。
当資料に掲載されている内容のうち数値は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表示しています。

おはようございます。社長の寺本でございます。当社WEBサイトに掲載している説明資料をご覧くださいながら、お聞きください。

アジェンダ

1. サマリー

2. 2020年12月期第2四半期連結業績概況

3. 2020年12月期通期連結業績見通し

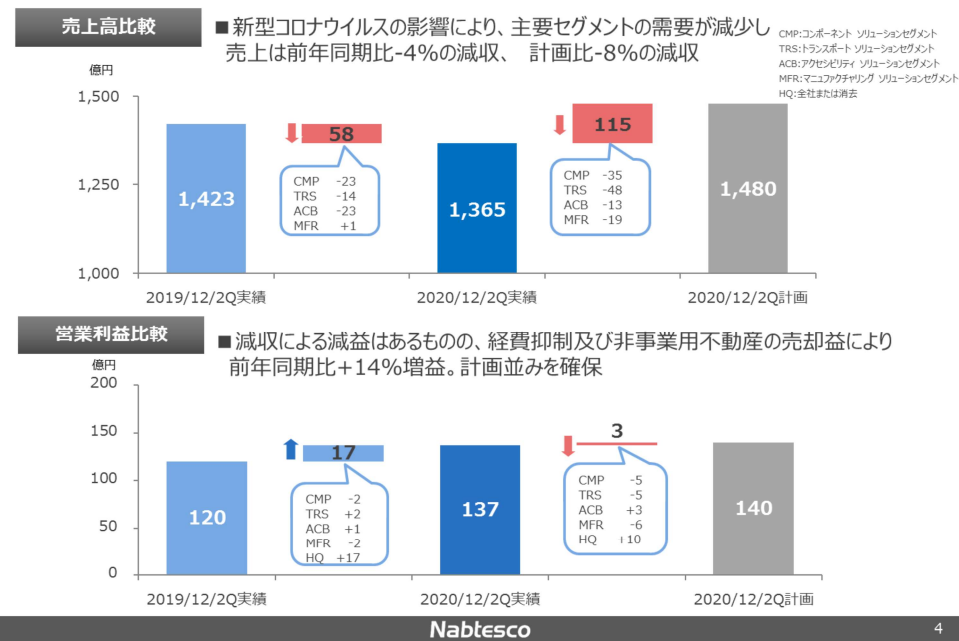
本日のアジェンダであり、この順番で説明いたします。

1. サマリー

2. 2020年12月期第2四半期連結業績概況

3. 2020年12月期通期連結業績見通し

2020年12月期 第2四半期サマリー



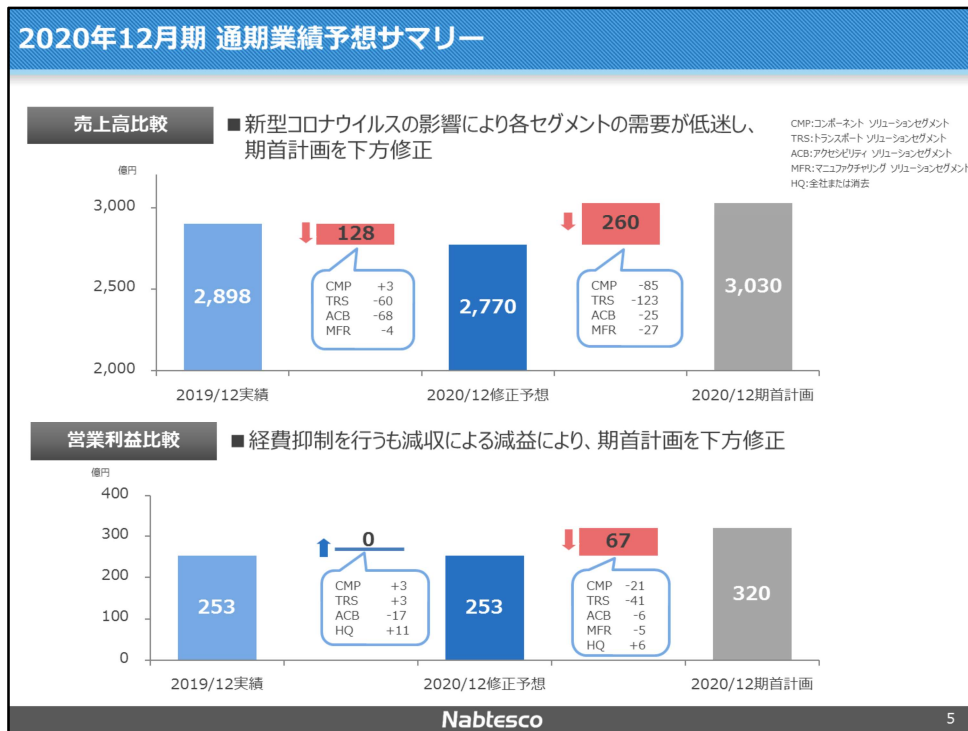
こちらは上期実績のサマリーを示しています。

上期の売上実績は対前年同期比及び上期計画比で減収となりました。

前年同期比ではマニュファクチャリングソリューションセグメント以外のセグメントは減収、計画比では全セグメントにおいて減収となりました。

減収による減益があるものの、営業利益は対前年同期比で、1Qでの非事業用の不動産売却や経費抑制及び生産性の向上により、前年並みを確保しております。

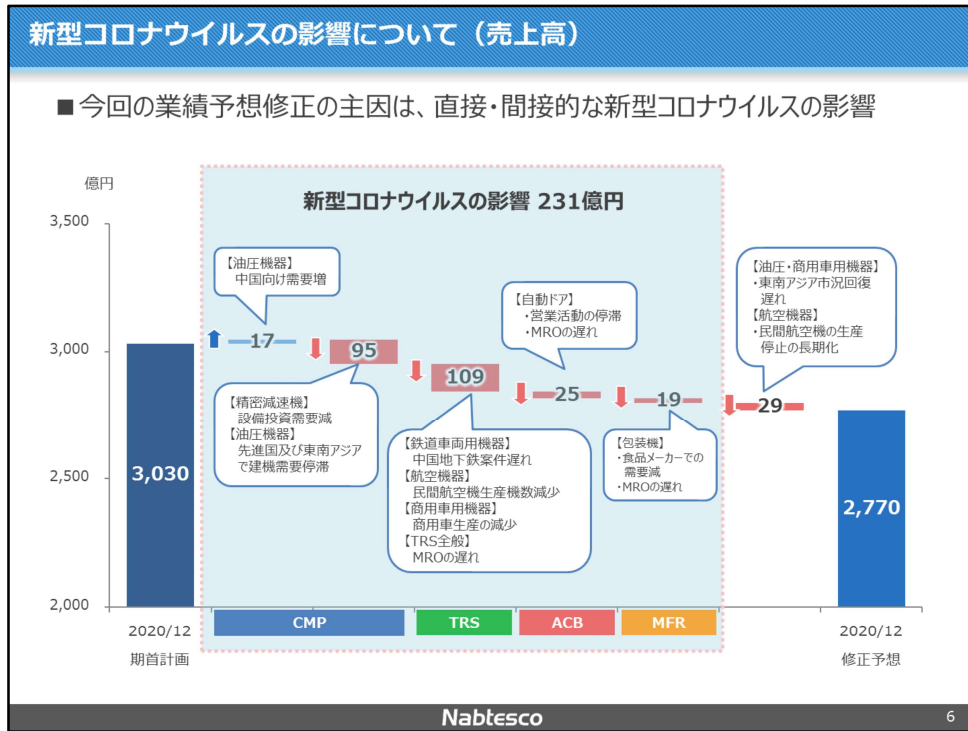
対計画比において、減収による減益があるものの、本社費の削減及びアクセシビリティセグメントの利益率の向上等の貢献で、コンポーネントソリューションセグメントやトランスポートソリューションセグメントの減益をカバーし、ほぼ計画並みとなりました。






1Q実績公表時点では、新型コロナウイルスによるネガティブ影響の合理的な算定が困難であり、影響の顕在化は2Q以降と想定し、通期見通しを修正しませんでした。今回、上期実績公表にあわせて、通期業績見通しを下方修正いたしました。期首計画において、各セグメントの需要が2019年12月期比で増加すると見込みましたが、達成困難な状況となり、通期業績予想を下方修正しました。

修正予想の売上は対期首計画比で△260億円の減収になる見通しです。対前年同期比でみると、修正予想のコンポーネントソリューションセグメントの売上はほぼ前年並みですが、トランスポートソリューションセグメントやアクセシビリティソリューションセグメントの売上は大幅に減収しています。期首計画時点で、前期からの需要減少を見込んでいた自動ドア事業も、新型コロナウイルスの影響により、更に需要減となる見通しです。

営業利益は非事業用不動産の売却や前年度に発生した減損の剥落及び経費抑制、設備投資の見直しによる減価償却負担の軽減により、前年並みを確保しました。対計画比でみると、期首計画における増収の実現ができない見通しとなり、経費抑制等の貢献があるものの、大幅の減益の見通しとなりました。



新型コロナウイルス影響による売上の影響度合いを示しています。
 新型コロナウイルスと関係なく、市場需要の変動により、期首計画比で△29億円の減収の見通しです。主に、油圧機器事業や商用車機器事業の需要回復の遅れや民間向けの航空機生産停止の長期化によるものです。
 新型コロナウイルスの影響による減収は、期首計画比で231億円となる見通しですが、中国での油圧機器事業は政府によるインフラ投資の増加もあり、建設機械の需要が増加し、想定よりも増収となる見通しです。
 直接に顧客のところに赴いてMROサービスを提供できないこと等により、MRO向けの売上は想定より、遅れています。

新型コロナウイルスの影響								
アンダーコロナとアフターコロナでの当社事業へのリスクと機会								
	コロナが引き起こす事象	影響	影響を受ける事業					
短中期	移動制限 ロックダウン	<ul style="list-style-type: none"> ・営業活動の停滞 ・旅客需要の減少 ・据付工事の遅れ 	 航空機器 自動ドア 包装機 MRO					
	経済の不透明性 景況感悪化 IMF World Economic Outlook <table border="1"> <tr> <td>GDP成長率</td> <td>2020</td> <td>2021</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-4.9%</td> <td>+5.4%</td> </tr> </table>	GDP成長率	2020	2021		-4.9%	+5.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資の抑制 ・製品購入サイクルの長期化・買控え ・物流量の減少
GDP成長率	2020	2021						
	-4.9%	+5.4%						
中長期	各国政府による 景気刺激策の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・中国でのインフラ投資の増加 ・EV/HV補助金の実施 	 精密減速機 油圧機器					
	新しい生活様式 3密回避	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化/省人化ニーズの増加 ・非接触ニーズの増加 ・旅客需要の回復 	 精密減速機 包装機 自動ドア 航空機器					

Nabtesco

7

短中期と中長期において、新型コロナウイルスの影響を示しました。
 短中期では、航空機器事業、自動ドア事業、包装機事業及びMRO事業を始め、精密減速機、商用車用機器、船用機器とほぼすべての事業において、ネガティブな影響を受けています。
 一方、ポジティブな面は、各国政府の景気刺激策により、特に足元では中国での油圧機器事業や精密減速機の引き合いが強くなっていることが挙げられます。
 中長期においては、精密減速機、航空機器事業、自動ドア事業、包装機事業での需要増を期待しています。

アジェンダ

1. サマリー

2. 2020年12月期第2四半期連結業績概況

3. 2020年12月期通期連結業績見通し

2020年12月期 第2四半期連結業績概況

■ 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、前年同期比、計画比ともに減収だが、販管費等の抑制及び非事業用不動産売却等により前年同期比増益。

(単位：百万円)	2019/12	2020/12	2020/12	前期同期比	計画比
	2Q実績 (A)	2/7公表 2Q計画 (B)	2Q実績 (C)	増減額 (C-A)	増減額 (C-B)
売上高	142,292	148,000	136,486	-5,806	-11,514
売上総利益	37,593	—	36,160	-1,433	—
(売上総利益率)	26.4%	—	26.5%	0.1pt	—
販売費及び一般管理費	26,151	—	24,608	-1,543	—
営業利益	12,011	14,000	13,669	1,658	-331
(営業利益率)	8.4%	9.5%	10.0%	1.6pt	0.6pt
税引前利益	13,488	15,000	14,693	1,205	-307
当期利益* ¹	7,706	9,200	9,392	1,686	192
一株当たり当期利益	62.11円	74.14円	75.66円		
中間配当	36円	41円(予)	41円		

*1当期利益=親会社の所有者に帰属する当期利益

Nabtesco

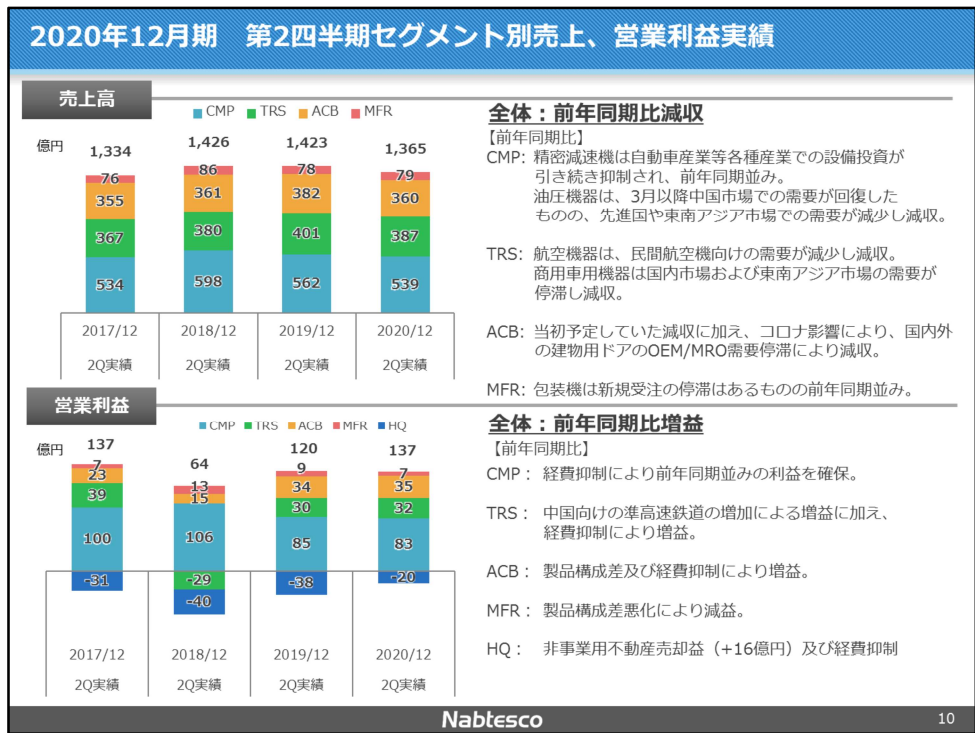
9

上期実績の売上は対前年同期比で58億円の減収であり、対計画比で115億円の減収となりました。

売上の減少により、売上総利益も対前年同期比で14億円の減益だったものの、販売費および一般管理費の抑制により15億円の増益要因がありました。

また、非事業用不動産の売却により、営業利益は対前年同期比で16億円の増益となりました。

配当につきましては、1株当たり41円の間配当を取締役会にて決議しております。

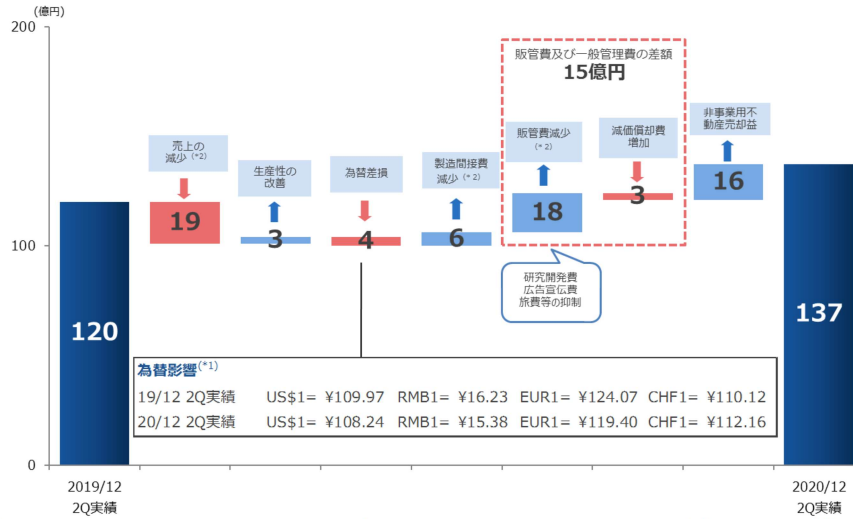


上期売上実績は、MFRを除く3セグメントで対前年同期比減収。詳細は右のコメント通りです。

上期営業利益の実績は、減収による減益があるものの、前述の通り、経費抑制と非事業用不動産の売却により増益となりました。

2020年12月期 第2四半期営業利益変動要因分析（2019年2Q実績比）

■ 減収による減益はあるものの販管費の抑制及び非事業用不動産の売却益により増益



*1 為替感応度(為替が1円変動したときの営業利益に対する影響): 米国ドル 61 百万円 人民元 410 百万円 ユーロ 軽微 スイスフラン 軽微

*2 売上および販管費等の増減による営業利益の変化については為替影響を除き計算。

対前年同期比で、売上の減少による減益があるものの、製造間接費の削減や販管費及び一般管理費の削減と非事業用不動産の売却益により増益となりました。

2020年12月期 第2四半期バランスシート(2019年12月期末比)

■自己資本比率は55%以上であり、引き続き健全なバランスシートを維持。
安定経営を図るため、現預金は月商の約2.8か月分を確保。

(単位：百万円)

	2019/12期末 2019年12月31日	2020/12 2Q末 2020年6月30日	差異
資 産	344,558	342,315	-2,242
(現 預 金 等)	58,686	61,655	2,970
(売 上 債 権)	70,175	65,120	-5,055
(棚 卸 資 産)	41,257	42,140	882
(有 形 固 定 資 産)	87,083	90,988	3,905
(使 用 権 資 産)	9,004	8,626	-378
負 債	145,424	140,168	-5,256
(社 債 及 び 借 入 金)	43,936	42,629	-1,306
資 本	199,133	202,147	3,014
(非 支 配 持 分)	11,735	11,330	-405
親 会 社 所 有 者 帰 属 持 分	187,398	190,817	3,419
親会社所有者帰属持分比率：	54.4%	55.7%	

Nabtesco

12

負債の減少は主に、売上債権の減少、資本の増加は利益の増加によるものです。
現預金は月商の2.8か月分を確保しています。
親会社所有者帰属持分比率は55.7%となり、2019/12期末に比べて微増となりました。

アジェンダ

1. サマリー

2. 2020年12月期第2四半期連結業績概況

3. 2020年12月期通期連結業績見通し

2020年12月期通期連結業績見直し

■減収を見込むも、昨年並みの営業利益確保を目指す。
1株当たりの配当金は期首計画の82円を変更し、75円を予定。(前年比+2円の増配)

(単位:百万円)	2019/12 通期実績 (A)	2020/12 期首計画 (B)	2020/12 修正予想 (C)	前期実績比 増減額 (C-A)	期首計画比 増減額 (C-B)
売上高	289,808	303,000	277,000	-12,808	-26,000
営業利益	25,320	32,000	25,300	-20	-6,700
(営業利益率)	8.7%	10.6%	9.1%	0.4pt	-1.4pt
税引前利益	27,979	34,000	27,000	-979	-7,000
当期利益*1	17,931	23,100	17,300	-631	-5,800
ROA	5.3%	6.5%	5.0%	-0.3pt	-1.5pt
ROE	9.8%	12.0%	9.1%	-0.7pt	-2.9pt
1株当たり配当金	73円	82円(予)	75円(予)	2円	-7円
配当性向	50.5%	44.1%(予)	53.8%(予)	3.3pt	9.7pt

*1当期利益=親会社の所有者に帰属する当期利益

Nabtesco

14

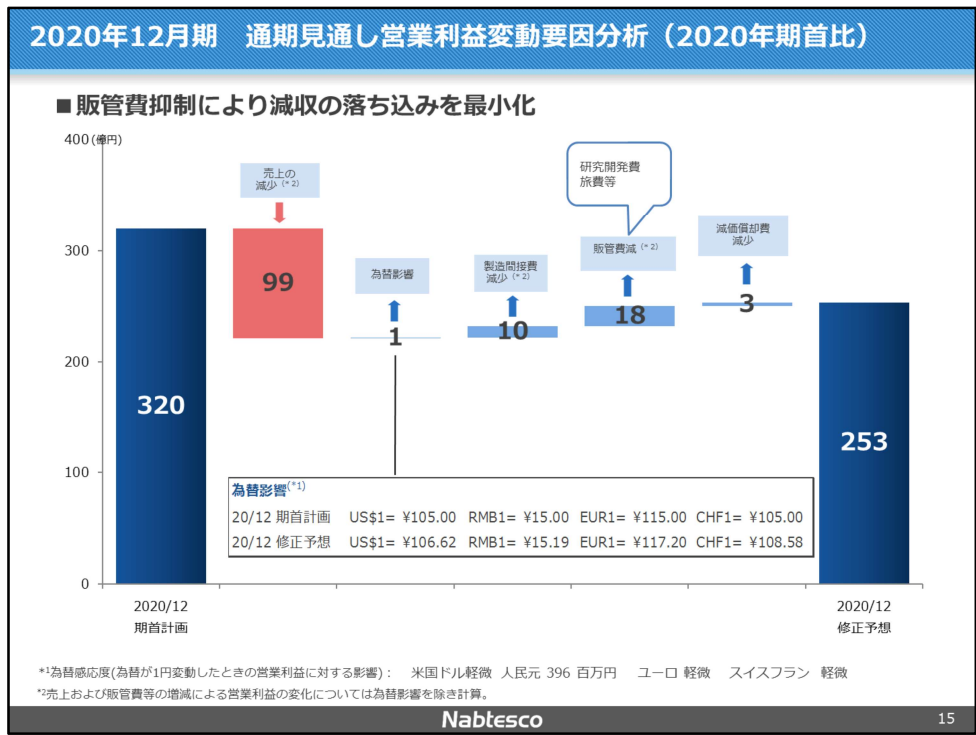
通期業績見直し(修正予想)は対期首計画比で減収減益の見直しです。

当期利益はほぼ昨年並みです。

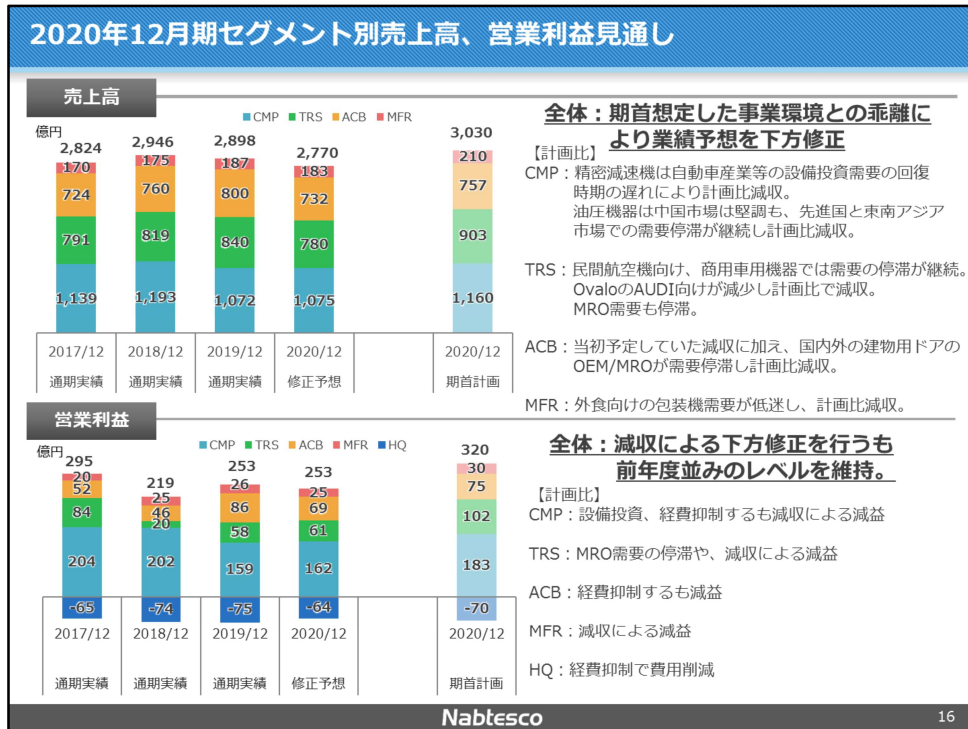
ROEは減益に伴い、期首計画より下がり、9.1%の見直しです。

通期配当予想は業績見直しの方修正に伴い、期首計画の82円より、75円へ引き下げました。

中期経営計画で定めた安定配当の維持及び連結配当性向35%以上という方針に則り、対前年比では2円の増配を予定しています。



修正予想の営業利益は経費抑制の貢献があるものの、期首計画比では減収による減益の見通しですが、前年並みの営業利益額を確保する予定です。



期首計画比で、各セグメントの売上は減収の見込みです。詳細は右のコメントの通りです。
減収による減益はあるものの、経費削減等の貢献により、営業利益は前年並みのレベルを確保する見通しです。

設備投資額・研究開発費・減価償却費

- 精密減速機の中長期的な成長を見込み、浜松の新工場用地の買収を完了（1Q 56億円）。その他、自動化・省人化投資等を中心に、通期でも選別的な成長投資を実施。
- 新型コロナウイルス影響により、研究開発費の進捗は計画比で遅れているものの将来の成長に必要な研究開発を継続。

(単位：億円)	2019/12	2020/12	前年同期比	2019/12	2020/12	2020/12	期首計画比
	2Q実績 (A)	2Q実績 (B)	(B-A)	通期実績	通期予想 修正 (C)	通期期首 計画 (D)	(C-D)
設備投資額	76	103	27	164	193	241	-48
研究開発費	48	44	-4	99	105	115	-10
減価償却費	64	67	3	131	132	135	-3

Nabtesco

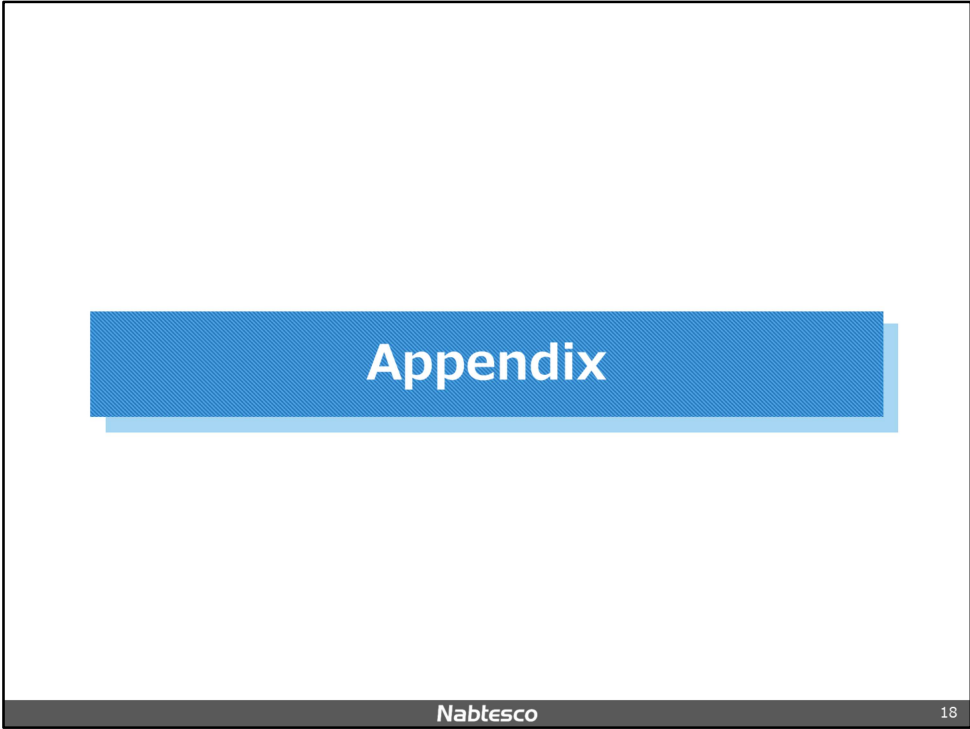
17

上期の設備投資実績は対前年同期比で増加しました。これは主に、将来の精密減速機の成長を見込み、浜松に工場用地を取得したことによるものです。土地取得の費用を除けば、設備投資は対前年同期比で圧縮傾向となっています。上期の研究開発費実績は新型コロナウイルスの影響もあり、対前年同期比で減少しています。

通期見通しの設備投資は241億円で、期首計画より48億円減少しています。上述の土地取得の影響を除くと、前年比でも計画比でも圧縮基調となる見通しです。

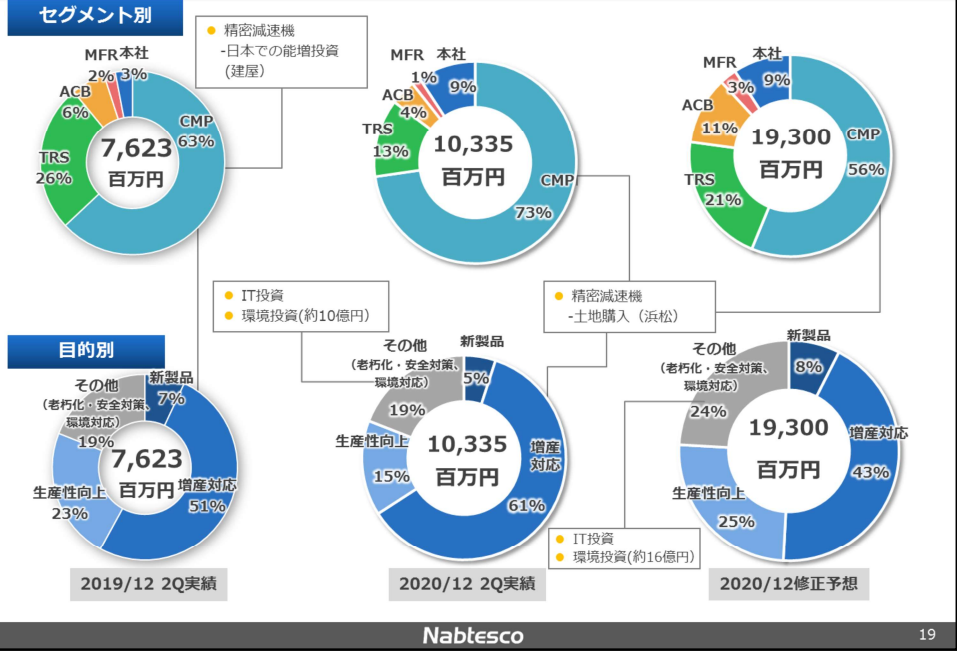
一方で、将来成長のための設備投資や研究開発は実行していきます。また、我々の企業理念であるナブテスコウェイで明言している通り、社会への貢献のための投資（主に環境関連の設備投資）は継続していく方針です。

加えて、新型コロナウイルス対策に関する投資や経費は抑制することなく、実施していきます。



Appendixに詳細な資料がございます。
説明は以上になります。

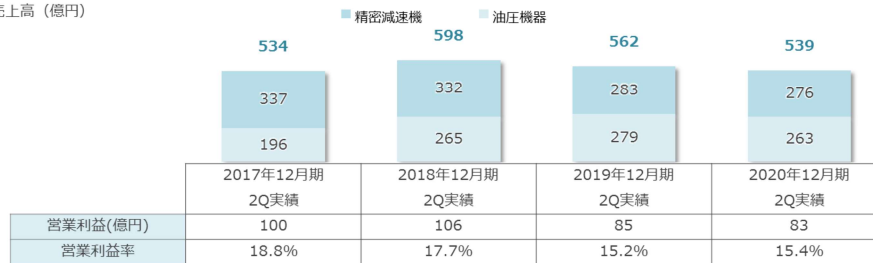
設備投資額内訳



コンポーネントソリューションセグメント (CMP) : IFRS

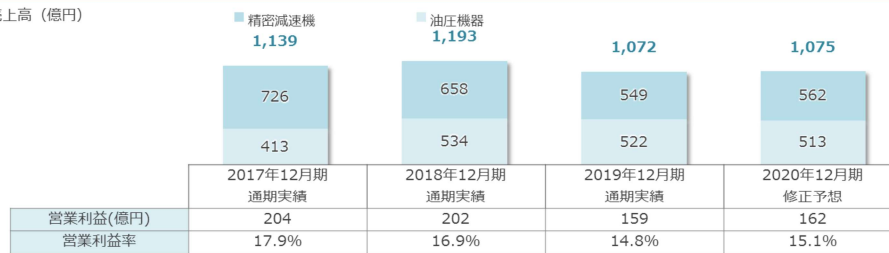
2Q実績

売上高 (億円)



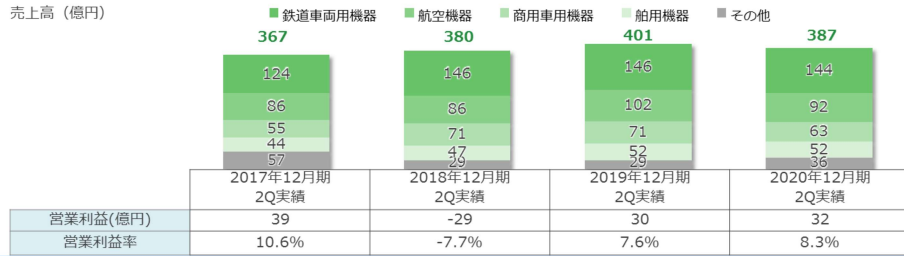
通期予想

売上高 (億円)

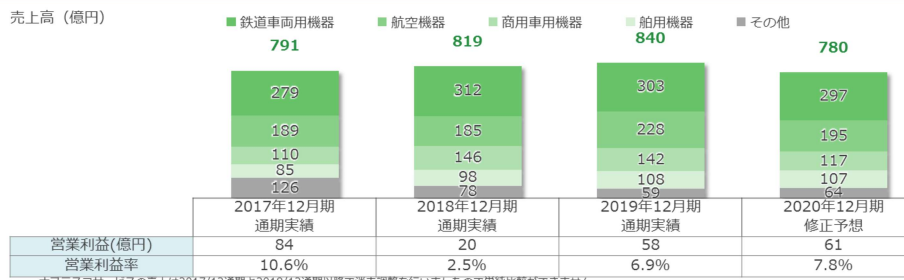


トランスポートソリューションセグメント (TRS) : IFRS

2Q実績



通期予想



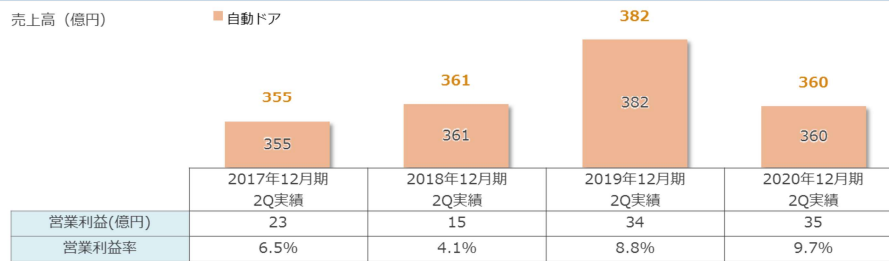
ナブテスコサービスの売上は2017/12通期と2018/12通期以降で消去調整を行いましたので単純比較ができません

アクセシビリティソリューションセグメント (ACB) : IFRS

2Q実績

売上高 (億円)

■ 自動ドア



通期予想

売上高 (億円)

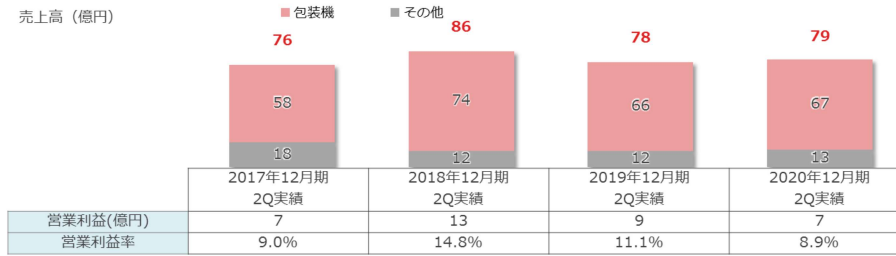
■ 自動ドア



マニュファクチャリングソリューションセグメント (MFR) : IFRS

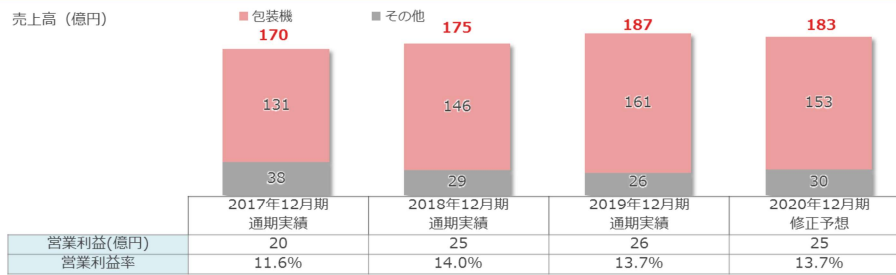
2Q実績

売上高 (億円)

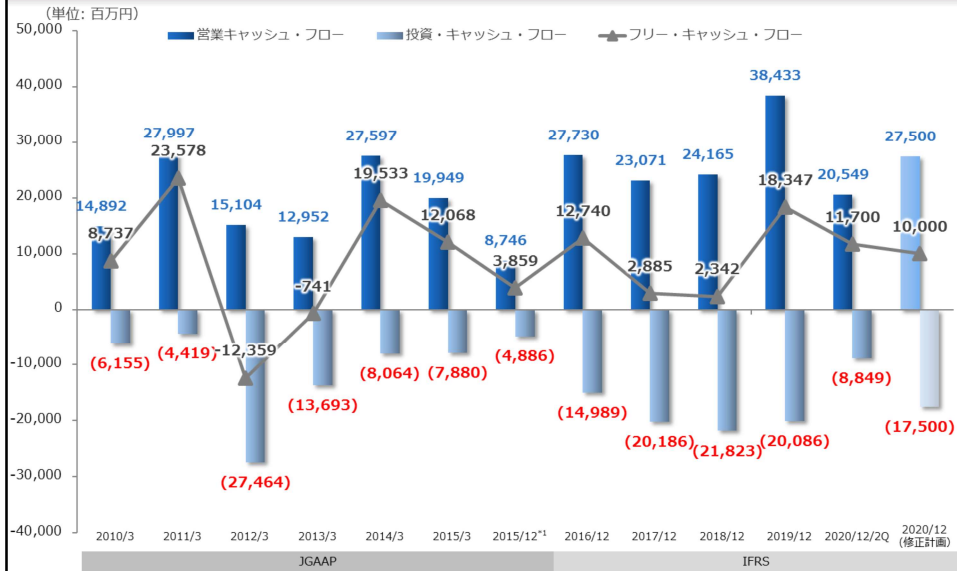


通期予想

売上高 (億円)



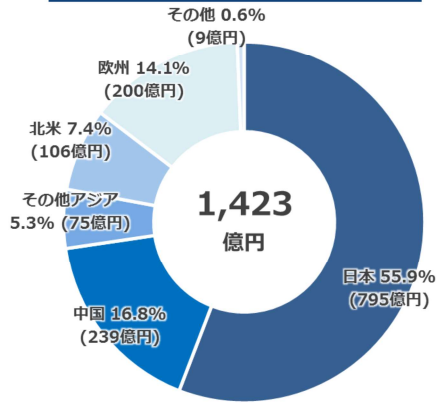
連結キャッシュ・フロー



*1 「2015年12月期末実績(参考値)」として示す業績数値は、「2016年12月期末実績(1-12月)」に対して、同条件で比較を行うため、比較対象期間を同期間(12カ月間)に置き換えて算出した数値となりますのでご留意下さい。

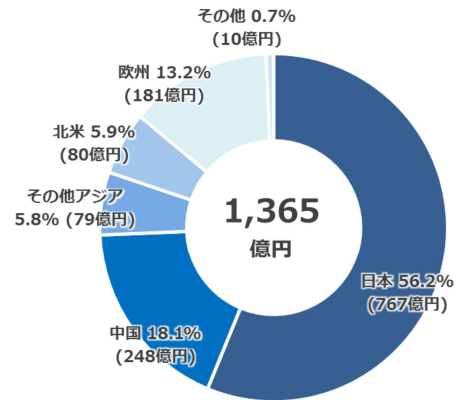
地域別売上高構成比

2019/12 上期実績



海外売上高	628億円
海外売上高比率	44.1%

2020/12 上期実績

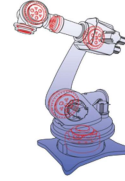
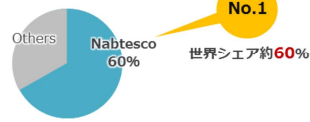


海外売上高	598億円
海外売上高比率	43.8%

コンポーネントソリューションセグメント (CMP) 主要製品

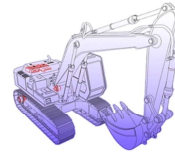
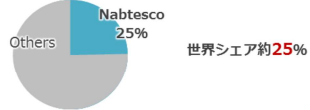
精密減速機

■ 中大型産業用ロボットの関節用途



油圧機器

■ 油圧ショベル用走行ユニット



主要顧客 (敬称略)

■ 精密減速機

産業用ロボット：ファナック、安川電機、川崎重工業、KUKA Roboter (独)、ABB Robotics (スウェーデン)
工作機械：ヤマザキマザック、オークマ、DMG森精機

■ 油圧機器

走行ユニット：コマツ、住友建機、コベルコ建機、Sany (中)、XCMG (中)、Liu Gong (中)

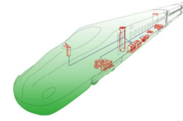
トランスポートソリューションセグメント (TRS) 主要製品

鉄道車両用機器

■ 鉄道車両用ブレーキシステム



■ 鉄道車両用ドア開閉装置



航空機器

■ フライトコントロール・アクチュエーションシステム(FCA)

- FCAでは世界4強の1社(ボーイングの主要サプライヤー)
- エンジン補機、電源システム等へも事業展開



主要顧客 (敬称略)

■ 鉄道車両用機器

JR各社、民鉄各社、川崎重工業、中国高速鉄道・都市交通向け

■ 航空機器

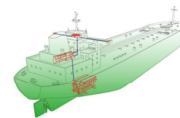
Boeing (米)、川崎重工業、三菱重工業、IHI、防衛省、エアライン各社

トランスポートソリューションセグメント (TRS) 主要製品

商用車用機器



船用機器



主要顧客 (敬称略)

■ 商用車用機器

日野自動車、いすゞ自動車、三菱ふそうトラック・バス、UDトラックス

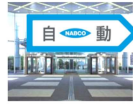
■ 船用機器

川崎重工業、マキタ、(株)日立造船、三井造船、(株)ジャパンエンジンコーポレーション、Hyundai Heavy Industries (韓)、HSD Engine Co., Ltd.(韓)、Hudong Heavy Machinery (中)、MAN Diesel (デンマーク)

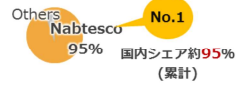
アクセシビリティソリューションセグメント (ACB) 主要製品

自動ドア

■自動ドア開閉装置



■プラットホームスクリーンドア



主要顧客 (敬称略)

■自動ドア

各種建物用自動ドア：大手ゼネコン他建設工事会社、サッシメーカー、病院、銀行、公共機関
 プラットホームドア：フランス地下鉄、中国地下鉄、他

マニファクチャリングソリューションセグメント (MFR) 主要製品

包装機

■レトルト食品用充填包装機



主要顧客 (敬称略)

■包装機

三井製糖、味の素、丸大食品、アリアケジャパン、ケンコーマヨネーズ、P&G、花王、ライオン、北米飲料メーカー、中国食品メーカー

うごかす、とめる。
Nabtesco